シラバス参照

タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**実務経験のある教員による科目**」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

科目ナンバー	RMGT3572		
科目名	メディアコミュニケーション論		
担当教員	福田　充		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	火３		
講義室	1501	単位区分	選必
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門・危機管理		
科目の位置付け（開発能力）	■ＤＰコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E[学識・専門技能] 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP3-G[状況把握力・判断力] 自らの置かれた状況、及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。 DP4-F[探究力・課題解決力] 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問 DP4-I[理解力・分析力] 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 DP7-C[他者理解・倫理観・公共心] 人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。 ■ＣＲコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（ＣＲ）との関連 C1　倫理的思考・社会認識－20% E1　学識と専門技能－40% F1　探求と論拠－10% G1　状況把握－10% I1　理解・分析と読解－20%		
教員の実務経験	2005年から内閣府内閣官房の「日本のテロ対策の在り方について委員会」などの委員として日本のテロ対策やミサイルなど国民保護体制の構築に関する実務に関与してきました。また2007年から埼玉県「危機・防災懇話会」委員として自治体行政における災害対策やテロ対策の構築のための実務に関わりました。その他にも政府や官庁、自治体の災害対策、テロ対策、国民保護などに関する委員会委員を歴任して、日本の危機管理体制の構築に関わってきました。現在も総務省消防庁ではテロ対策など国民保護についての懇話会で、厚生労働省では新型インフルエンザ委のパンデミックについての有識者会議や委員会で、神奈川県の国民保護情報ネットワークでは研究者メンバーとして、行政や自治体、ならびに企業など多様なステークホルダーと連携しながら日本の危機管理体制の構築に関わっています。こうした実務経験をもとに、講義を行います。（第6回、第9回、第11回、第12回、第13回、第14回）		
成績ターゲット区分	■能力開発の目標ステージとの対応 ３発展期～４定着期		
科目概要・キーワード	社会におけるコミュニケーションには多様なレベルが存在します。（１）人と人が直接向かい合ってコミュニケーションする対人コミュニケーション。（２）人と人がメディアを媒介し		

	てコミュニケーションするメディア・コミュニケーション。（３）マスメディアを媒介してマスオーディエンスに一方向的に情報伝達するマス・コミュニケーションの３種類です。これらの中で、とくに現代において重要性を増しているメディア・コミュニケーションについてその構造と理論を考察します。現代的なメディア・コミュニケーションには、パソコンやスマートフォン、タブレットなどを通じたインターネットによるコミュニケーションが含まれます。たとえば、メールやWEBサイト、TwitterやFacebook、LINEなどのSNSや、YouTubeやインスタグラムなどの動画・画像投稿サイトなどのソーシャルメディアによるコミュニケーションは、メディア・コミュニケーションの最先端です。こうしたメディア・コミュニケーションの理論と効果について考察します。さらに，災害マネジメント，パブリックセキュリティ，グローバルセキュリティ，情報セキュリティの４領域に即して，危機管理学の観点からメディアコミュニケーションの問題を考察します。 授業形態は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 （キーワード）　・メディア　・コミュニケーション　・インテリジェンス
授業の趣旨	■副題 危機管理学におけるメディアコミュニケーションの諸問題 ■授業の目的 危機管理学の観点から、メディア・コミュニケーションに関する法律や政治、社会現象を考察し、社会心理学的な効果や影響について専門知識を深め、理解することを目的とします。 ■授業のポイント 危機管理学におけるリスクコミュニケーションやインテリジェンス、情報セキュリティの問題は、メディアやコミュニケーションの問題と切り離せません。これらの危機管理学の諸問題を、メディアコミュニケーション理論の観点から考察します。
総合到達目標	受講者が、メディア・コミュニケーションにおける社会問題とその構造について専門的な知識を習得し、それらの社会問題の解決策について危機管理学的な観点から提案できるようになることを目標とする。 ・危機管理に関わる専門分野の理論知と実践知を獲得し利用することができる。（第1回～第15回） ・危機管理の学びにおいて自らの置かれた状況、所属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。（第7回～第14回） ・危機管理に関する課題を設定し、それに対する結論を合理的に導くために、分析を体系的に行うことができる。（第1回～第15回） ・文章、数値データを適切に扱い、情報収集、分析と加工を行い、課題解決につなげることができる。（第10回～第14回） ・人間行動に関する推論に正面から取り組み、社会的存在としての自己の行動原理を獲得することができる。（第1回～第6回）
成績評価方法	■授業内の課題レポート　1回　（10%）　：適用ルーブリック　E1・I1 教科書・福田充（2022）『リスクコミュニケーション～多様化する危機を乗り越える』（平凡社新書）の評論レポート。 （評価の観点） メディアコミュニケーションに関するさまざまな理論や社会問題についての理解度について評価します。 （フィードバックの方法） 授業内で解説を行います。 模範解答を授業内で紹介します。 ■リアクションペーパー　15回　（50%）　：適用ルーブリック　C1・F1 （評価の観点） それぞれの回の講義において論じたメディアコミュニケーションの理論や概念、そして社会問題についてどのように理解したか、またどのような問題意識をもったかについて評価します。 （フィードバックの方法） 授業内で解説を行います。 模範解答を授業内で紹介します。 ■期末レポート　（40%）　：適用ルーブリック　C1・E1・F1・G1・I1 （評価の観点） メディアコミュニケーション論の講義全体において考察した理論や社会的問題について、どのような問題に注目し、どのような理論や概念を用いてそれらの解決方法を考察することができるか、理解度や論理性、発想力などの観点から評価します。 （フィードバックの方法）

	授業内で解説を行います。 模範解答をポータルで配布します。
履修条件	特にありません。領域を超えて多様な領域、キャリアコースの学生に受講してほしいと思います。
履修上の注意点	危機管理に興味関心を持ち、予習・復習を欠かさない学習態度をもって、授業に望んでほしいと思います。
授業内容	

回	内容
1	①授業テーマ ガイダンス　（授業テーマと進め方の説明） ②授業概要 メディアコミュニケーション論の講義の進め方，教科書と参考書，評価方法などについてガイダンスを行う。このメディアコミュニケーション論を学ぶことで身につく知識や能力，姿勢について理解する。（C1、E1、I1） ③予習（120分） メディアコミュニケーション論の講義で指定する教科書や参考書，ノートを準備する。メディアとは何かについて自分なりに考えてくる。 ④復習（120分） 講義ノートを振り返り，ノートを整理する。教科書『リスクコミュニケーション～多様化する危機を乗り越える』（平凡社新書）の序章を読む。
2	①授業テーマ 　コミュニケーションとは何か ②授業概要 　社会を構成するコミュニケーションについて，①マスコミュニケーション，②メディアコミュニケーション，③対人コミュニケーションの３つのレベルから，その特性と諸問題について考察する。（C1、E1、F1、G1、I1） ③予習（120分） 　マスコミュニケーションに該当するテレビ，ラジオ，新聞，雑誌などの会社や製作するコンテンツについて調べてまとめる。 ④復習（120分） 　教科書『リスクコミュニケーション～多様化する危機を乗り越える』（平凡社新書）の1章を読む。
3	①授業テーマ 　メディアとは何か ②授業概要 　社会に存在するメディアの特性について，物理的存在としてのメディア，理論的な概念としてのメディアの両面から，考察を行う。映像メディア，音声メディア，活字メディアなどの情報モダリティの側面からの考察，放送メディア，通信メディア，パッケージメディアなどのメディア形態からの考察など，メディアの多様性とその構造的な特性について考察する。（C1、E1、F1、G1、I1） ③予習（120分） 　教科書『リスクコミュニケーション～多様化する危機を乗り越える』（平凡社新書）の2章を読む。 ④復習（120分） 　自分が日々使用しているメディアがどのような特徴を持ち，どのような効果，影響を自分に与えているかを客観的に考察してレポートにまとめる。
4	①授業テーマ 　メディアコミュニケーションの理論 ②授業概要 　メディアコミュニケーションについて，これまでのメディア研究やマスコミ研究において蓄積されてきた理論やモデルを概観し，基礎的な知識を習得する。特に，議題設定機能や沈黙のらせん理論，培養理論，知識ギャップ仮説などメディア効果論を中心に考察する。（C1、E1、F1、G1、I1） ③予習（120分） 　メディアコミュニケーションと政治問題の関係が，危機管理という文脈においてどのような問題性を持つか考察する。 ④復習（120分） 　教科書『リスクコミュニケーション～多様化する危機を乗り越える』（平凡社新書）の3章を読む。
5	①授業テーマ 　インターネットにおけるコミュニケーションの諸問題

		②授業概要 　インターネットがもたらしたコミュニケーションの革命について考察する。ポール・バランの並列分散処理型ネットワーク，テッド・ネルソンのハイパーテキスト理論，ノルベルト・ウィーナーのサイバネティクスなど，インターネットを生み出した理論について概念的に振り返りながら，社会において普及したインターネットが人々の生活や社会をどのように変えたか，理論的かつ具体的に考察する。（C1、E1、F1、G1、I1） ③予習（120分） 　テッド・ネルソンのハイパーテキスト理論について自分で調べる。参考書・テッド・ネルソン『リテラリーマシン～ハイパーテキスト言論』（アスキー出版）を読む。 ④復習（120分） 　ノルベルト・ウィーナーのサイバネティクス理論について調べる。参考書・ウィーナー『サイバネティックス～動物と機械における制御と通信』（岩波文庫）を読む。
	6	①授業テーマ 　モバイル・コミュニケーション ②授業概要 　コミュニケーションの可能性を拡大させたのはモバイル機能による機動力である。モバイル機能は車や船，飛行機に搭載されることにより社会活動に革命的転回をもたらした。さらにはモバイルメディアである携帯電話やスマートフォンは人々の生活と社会の形を一変させた。モバイル・コミュニケーションの機能と問題について考察する。担当教員の実務経験に基づいた講義を展開する。（C1、E1、F1、G1、I1） ③予習（120分） 　社会における仕事においてどのようなモバイル・コミュニケーションが実践されているか考える。また社会のライフラインである交通機関において，このモバイル・コミュニケーションがその運用をどのように変えたか，この通信機能がどのように社会の形を変えたかを考察する。 ④復習（120分） 　モバイル・コミュニケーションを確立してきた通信メディアの歴史と事例を調べてまとめる。
	7	①授業テーマ 　ソーシャルメディアのコミュニケーション ②授業概要 　Web2.0メディアがもたらしたTwitter，Facebook，LINEなどのSNS，YouTube，ニコニコ動画などの動画投稿サイトなどのソーシャル・メディアにおけるコミュニケーションの特性や，それが社会にもたらす影響について考察する。CMC(Computer Mediated Communication)理論について検討しながら,さらに発展したソーシャル・メディアの新しい可能性と問題点を探る。（C1、E1、F1、G1、I1） ③予習（120分） 　ソーシャルメディアの歴史と進化について調べる。 ④復習（120分） 　これらのソーシャルメディアが災害対策，テロ対策などをどのように変えたか，その社会的影響について調べてまとめる。
	8	①授業テーマ 　ユビキタスとメディアコミュニケーション ②授業概要 　マーク・ワイザーのユビキタス・コンピューティングの概念をもとに，ユビキタスの理論的可能性と社会における具体的事例について触れながら，ユビキタス社会におけるコミュニケーションの問題を考察する。（C1、E1、F1、G1、I1） ③予習（120分） 　マーク・ワイザーと彼が所属したパロアルト研究所について調べて，技術革新をもたらす思想にはどのような特徴があるかを考える。 ④復習（120分） 　ユビキタスの概念によって整備されてきた社会インフラについて具体的な事例を挙げてその社会的効果について考えてノートにまとめる。
	9	①授業テーマ 　ビッグデータ，データベース，ＧＩＳ ②授業概要 　現代の危機管理とインテリジェンス活動によって利用されるシステムには様々なものがある。ＧＩＳ（地理情報システム）は社会インフラの保護や犯罪予防に欠かせないツールとなっており，様々な社会活動がアクセスログとしてデータベース化されることで，ビッグデータを形成している。こうしたＧＩＳやデータベース，ビッグデータが危機管理においてどのように活用されているか，具体的かつ理論的に考察する。 DP1-E[学識・専門技能] 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。担当教員の実務経験に基づいた講義を展開する。（C1、E1、F1、G1、I1）

		③予習（120分） 　地理情報システム（ＧＩＳ）が社会のどのような現場で使用されているか，どのような目的て活用されているか，調べてまとめる。 ④復習（120分） 　ビッグデータの政治的な利用方法（選挙や監視），経済的な利用方法（マーケティング）について考察して，その問題性について考察する。
	10	①授業テーマ 　メディアのセキュリティと監視社会 ②授業概要 　社会におけるコミュニケーション・システムに対してセキュリティを強化するほど，ユーザーの自由や人権は損なわれる。情報社会における監視社会論の観点から，マーク・ポスターの「情報様式論」や，デビッド・ライアンの「監視社会」を中心に，ネットワーク社会と監視社会論の問題を考察する。（C1、E1、F1、G1、I1） ③予習（120分） 　新聞や雑誌の記事をネットで検索し、社会的問題として監視技術がどのような問題を引き起こしているかを調べる。 ④復習（120分） 　参考書・デイヴィッド・ライアン『監視社会』（青土社）を読み，ノートに概要と感想をまとめる。
	11	①授業テーマ 　フェイクニュースとポストトルゥースの時代 ②授業概要 　担当者の実務経験を踏まえて、ネットやSNSのコミュニケーションにおいて発生した、フェイクニュースの問題とそれによってもたらされたポストトルゥース社会・時代の特徴を考察する。（C1、E1、F1、G1、I1） ③予習（120分） 教科書『リスクコミュニケーション～多様化する危機を乗り越える』（平凡社新書）の4章を読む。 ④復習（120分） 　フェイクニュースの事例について調べ、それらが世界にどのような影響を与えたかを考察する。
	12	①授業テーマ 　危機において発生するインフォデミック ②授業概要 　担当者の実務経験を踏まえて、新型コロナや原発事故などの危機において発生したインフォデミックの問題を、具体的事例と社会心理学的な理論から考察する。（C1、E1、F1、G1、I1） ③予習（120分） 教科書『リスクコミュニケーション～多様化する危機を乗り越える』（平凡社新書）の5章を読む。 ④復習（120分） 　インフォデミックの具体的事例にどのようなものがあるか、新型コロナや原発事故などの具体的な危機における事例について考察する。
	13	①授業テーマ 　インターネット時代の陰謀論（コンスピラシー） ②授業概要 　担当者の実務経験を踏まえて、インターネットやSNSの時代に、どのような陰謀論が発生したか。9.11テロ事件や新型コロナ、アメリカ議会襲撃事件などグローバルな危機において発生した陰謀論とインターネットにおけるメディアコミュニケーションの関係を考察する。（C1、E1、F1、G1、I1） ③予習（120分） 教科書『リスクコミュニケーション～多様化する危機を乗り越える』（平凡社新書）の6章を読む。 ④復習（120分） 　歴史的に発生してきた世界の陰謀論について、具体的事例を自分で探し、その背景や社会的影響について調べて考察してまとめる。
	14	①授業テーマ 　メディアリテラシーと民主主義 ②授業概要 　担当者の実務経験を踏まえて、民主主義社会を運営していくためには、健全なメディアとジャーナリズム、そして市民のメディアリテラシーが重要である。民主主義とメディアリテラシーの問題を考察する。（C1、E1、F1、G1、I1）

		③予習（120分） 　教科書『リスクコミュニケーション～多様化する危機を乗り越える』（平凡社新書）の7章を読む。 ④復習（120分） 　社会に存在する多様なメディアに対してどのようなメディアリテラシーの社会教育が必要であるかを考察してまとめる。
	15	①授業テーマ 　まとめと総括 ②授業概要 　メディアコミュニケーション論で考察してきた様々な理論や社会問題について全体的な振り返りを行い，議論の総括を行う。（C1、E1、F1、G1、I1） ③予習（120分） 　教科書の福田充『大震災とメディア～東日本大震災の教訓』（北樹出版）を最後まで読み，ノートにまとめる。 ④復習（120分） 　これまでのノートをすべて読み返して論点を整理し，期末レポートの執筆に向けて準備する。

関連科目	リスクコミュニケーション論（RMGT 1304），マスコミュニケーション論（RMGT 3575），「情報倫理（RMGT　3574）」，「企業広報論（RMGT　3578）」
教科書	福田充（2022）『リスクコミュニケーション～多様化する危機を乗り越える』（平凡社新書）。
参考書・参考ＵＲＬ	福田充（2010）『リスクコミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』（北樹出版）。 福田充編（2012）『大震災とメディア～東日本大震災の教訓』（北樹出版）。 福田充（2010）『テロとインテリジェンス～覇権国家アメリカのジレンマ』（慶應義塾大学出版会）。 福田充（2009）『メディアとテロリズム』（新潮新書）。その他は講義中に適宜紹介します。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先　開講時に告知します。 ■オフィスアワー　金曜3限。それ以外の時間については、メール等で事前にアポイントメントをとることにより研究室で対応します。
研究比率	■危機管理領域との対応 　災害マネジメント20%：パブリックセキュリティ20%：グローバルセキュリティ20%：情報セキュリティ40% ■危機管理学と法学とのバランス 　危機管理学80%：法学20%

戻る

Copyright (c) 2016 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.